



ハラール食の啓蒙活動

はじめに

5年後に東京五輪を控え、インバウンド需要が増えた2015年。ふと不思議に感じたことがありました。それは世界人口の約25%を占めるムスリム（イスラム教徒）の姿を静岡ではほとんど見かけることはなく、日本もムスリム市場にほとんど参入できていないことでした。その原因は何か。答えを見つけ挑戦をすることに新しいビジネスへの「鍵=チャンス」があるのではないかと。その思いを胸にオリンピックまでの5年間ハラール食を中心とした多様な食文化へのチャレンジを始めました。

ムスリムの旅行の鍵は「ハラール食」にあり

「ムスリムが旅行をする際に優先すること」を知るために、在日ムスリムの方々にアンケートを行った結果、ムスリムの旅行の「鍵」は、イスラム教の規律に沿った「ハラール食」にあることがわかりました。対し、同じ時期に行った静岡の食品業者へのアンケートでは、9割が「ハラール食」について知らないという結果でした。



産官学連携のもと
製作したガイドブック



静岡ハラール弁当



バンラディッシュ市長団
静岡来訪歓迎イベント案内

まずはハラール食を理解してもらうこと

この結果をもとに私たちは、ビジネスのスタートは静岡の食品関係者への「ハラール食への理解」にあると考え、ハラール食に対する啓蒙活動を行うことにしました。具体的な活動としては、①ガイドブックの作成 ②勉強会やセミナーの実施 ③静岡の食材を使ったハラール対応メニューや商品の開発 ④静岡のハラール食をムスリムに提供するイベントの企画と開催 ⑤メディアへの働きかけ、などです。

少しずつ埋められてゆく垣根

ガイドブックは好評で増版を重ね、3000冊を超えました。セミナーや勉強会、イベントの開催も30回を超えました。またこの活動をテレビ、ラジオ、新聞、雑誌等多くのメディアにも取り上げていただきました。今ではほとんどの静岡の食品関係者がハラール食への知識を持ち、対応できる飲食店やホテルも増え、新しいメニューや製品も開発されています。イベントでは、ムスリムの方と私たち地元の人々がともに「静岡産のハラール産品」を食べながら、コミュニケーションをはかることで両者の垣根は縮まってきているのでは、と感じています。

